

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292400072		
法人名	株式会社 ヘルシーサービス		
事業所名	グループホーム ガーデンコートちはら台 1階		
所在地	千葉県市原市ちはら台東9-11-4		
自己評価作成日	平成27年1月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階		
訪問調査日	平成27年2月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お客様の気持ちを大切に、自分自身の出来る事をやって頂きながら 一人ひとりと関わりを持って楽しみのある生活を送って頂けるようお手伝いをさせて頂いております。毎月の行事や外出支援、地域活動にも積極的に参加し地域交流の場を作っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「お客様とスタッフが明るく、楽しく」をモットーに、利用者一人ひとりが日々楽しみのある生活が送れるように職員が一丸となり支援している。今年度は、外出支援に力を入れて取り組み、県内外の観光名所への外出のほか、イルミネーションを楽しむためのドライブに出かけたり、定期的に外食会も取り入れ食事の楽しみにつなげる等、利用者の生活の幅を広げている。地域との交流においても、ポッチャやゲートボールを通じて交流を深めている。また、今年度は職員が中心となり「ちはら台バンド」を結成し、ホーム内行事や地域の懇親会で演奏する等、職員の特技を活かした取り組みも確認できた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての社是、経営理念、心得を踏まえ、職員で考えた理念を基に実践しております。理念は、共有部分、事務所に掲示しています。	お客様・ご家族・地域の健やかな暮らしに貢献するという「社是」や「経営理念」を事務所に掲示し、施設独自に家で暮らす時と同様に「あたり前の生活」ができることを提供することを目指し、全職員で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会の行事に積極的に参加し、防犯パトロールや福祉ネットワーク行事に参加している。ボランティアの受け入れや、ボランティアとして参加をしています。	地域行事である防犯夜間パトロール、ゴミ拾い、桜祭り、盆踊りに職員や利用者が積極的に参加して、地域との交流を深めている。その結果、施設の知名度や存在感が高まっており、地域に根ざした運営につながっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域福祉ネットワーク行事にお客様と一緒に参加しています。また、認知症サポーター研修を実施しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域での活動状況や、利用者状況を中心に質疑応答形式でアドバイスを頂いております。	会議には地域包括支援センター、診療所長・看護師、民生委員兼町会副会長、介護相談員、外部施設管理者、家族等の出席があり、運営現状、活動報告のほか、参加者の方より、地域の課題等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今後に向けては、会議に自治会の方の参加がある事でより多くの地域情報が収集できると考える。今後の取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的な訪問により、空き状況や現状を報告・相談をおこない、情報交換を行なっています。また、担当者様には、運営推進会議に参加いただいています。	市担当者と日頃から連絡を取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全面の考慮から、玄関及び階段の施錠は行なっています。(エレベーターでの上下階を行き来する事は可能 玄関を開ける際は職員への声かけをお願いしています。)	県主催の身体拘束廃止研修を主任職員が受講し、拠点会議等において話し合い、情報の共有化を図っている。玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでおり、現状、身体拘束の事例の発生はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	実際にあった事例などを申し送りや掲示する等、職員に理解実践できるようにしております。		

グループホームガーデンコートちはら台(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や連絡ファイルを通じ、情報の共有に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、不明な点を残さないよう 途中途中に質問を伺いながら進めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設行事や地域行事の都度、ご家族様への案内を送付させて頂き 参加をお願いしています。電話連絡や来訪時、運営推進会議の際など常にご意見を伺えるよう心がけています。	家族からの意向や要望は、来訪時(運営推進会議への出席時、面会時、イベントの開催時)、電話連絡時、ケアプランの説明時に意見、要望を聞く機会を設け、それらを運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	お客様やご家族、職員からの意見を収集し、拠点会議の際に全体で話し合い、検討を行なっています。	雇用契約更新時に管理者と個人面談を実施しているほか、日常的に管理者やケアマネージャーから職員に声をかけるようにしている。それらの意見等は拠点会議やユニット会議で意見交換を実施し、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者がまとめた職員個々の情報を総括し、環境改善を行なっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修の他、外部研修の紹介を行なっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市原市内の他事業所との交流を持ち、施設見学の他に情報交換や運営推進会議にお誘いをしています。		

グループホームガーデンコートちはら台(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを十分にとり、本人のニーズを引き出せるよう心がけております。職員間で情報の共有と対応を行なっています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用開始前に要望や背景の把握に努め、ご利用開始してからも状況の変化など、まめに報告を心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	CM、相談員、施設、家族からの情報提供を求め現在のご本人、ご家族の望む暮らしが提供できるようなサービスを心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護が必要なタイミングを見極め、必要に応じて介助、声かけを行なっています。お客様と共に 炊事、掃除、洗濯等の日常生活を行なう事で信頼関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段から連絡をこまめに取り、本人の状況をお互いに提供しあえる関係作りを行なっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	築いてきた交流を閉ざさないよう、ご家族様との外出、外泊の機会が増やせるよう働きかけています。	利用者との日常的な会話から馴染みの場所などの情報を得て、これまでの関係の継続に努めている。具体的に友人の来訪や手紙、美容院の継続利用、以前住んでいた場所にドライブする等、馴染みの関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士が交流できるような場を設け、共同作業等を通じ、より良い関係が築けるよう働きかけています。孤立してしまう方へは個別ケアを通し少しずつ距離を縮められるよう努めています。		

グループホームガーデンコートちはら台(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了した後も気軽に連絡頂けるような声かけをしています。その後の様子等を伺えるようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居される前の生活状態を十分にリサーチし、本人の意向に添えるよう努めています。	日頃の会話や表情から一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、また家族等の協力を仰ぎその把握に努めている。困難な場合は、家族に相談の上、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族関係者から今までの生活歴を伺い従来の生活から可能な限りズレがないように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の把握、日頃の変化に注意を払い職員同士や家族を踏まえた情報交換ができるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に見直しをしている他、変化があった場合はその都度見直し検討し、より良い生活を送っていただけるよう心がけています。	アセスメントにおいて利用者の現状及び課題を抽出し、アセスメントで得た情報を基に担当者会議において利用者、職員から意見を収集し、総合的な意見を踏まえてケアプランを立案している。ケアプランの状況は毎月モニタリングを行い、目標の達成度を確認している。	今後に向けては、担当者会議に医師や看護師等の他職種の意見も取り入れ、ケアプランに掲げる目標がより明確になる事に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態を記録しています。重要事項は申し送りや、業務日誌、会議等を通じて全職員が把握できるよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物や地域行事に参加している他、地域ボランティアが行なっているスポーツなどへの参加も事業所で取り組んでいます。		

グループホームガーデンコートちはら台(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事や防犯パトロール等へ積極的に参加し、地域住民との繋がりを持てる様努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関については、入居前に説明させて頂きご家族、主治医、事業所で話し合い、今後の方針について納得頂いたうえで受診して頂いています。	提携医療機関の往診が月2回あるほか、提携外の医療機関の受診については、本人及び家族等の希望を大切にし、受診できるように支援しており、必要時に適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じ協力医療機関の看護師や、施設看護師へ連絡を取っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際、必要事項は入院先担当医や看護師へ詳細な情報提供を行なっています。入院中は、状況確認に伺っています。退院の際は、病院関係者と担当者会議を行なっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設として出来ること、出来ないことを明確に説明し、ご本人、ご家族が納得された上で主治医を交えてケアの方向性を決めていきます。	重度化や終末期の方針に関しては、契約時において方針を説明し、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有している。重度化が見られる場合は、家族や主治医と再度話し合いを行い、今後の方針を検討していくこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の救急救命講習を受講し、急変時に慌てることなく対応できる様に努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いでの防火訓練の他、施設内研修として様々な想定で避難訓練を行なっています。	避難訓練については、消火や通報、夜間を想定した訓練を年2回実施している。災害に備え、懐中電灯やカセットコンロを揃えている。災害時にはメールによる家族との連絡網を構築しており、災害伝言ダイヤルの使用についても検討中である。	今後に向けては、居室等に設置している家電品がリコール製品になっていないか、またコンセント付近に埃がたまっていないか等の確認も必要であろう。

グループホームガーデンコートちはら台(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴を7把握した上で、敬う気持ちを持って対応をしています。	「言葉遣いや接遇について」は10月に内部研修を実施しており、また、日々の申し送りを通して言葉遣いや対応について振り返りを行い、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	やりたい事、出来る事、行きたい場所をお客様と一緒に考え、自己決定できる様な関わり方を心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせて入浴時間や食事時間を変更して対応をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭そりや、衣類の自己決定や必要な助言、介助を行なっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様と職員が同じテーブルを囲んで食べています。準備から味付け、洗い物等出来るだけ一緒に行なって頂けるよう声かけをしています。お誕生日はリクエストメニューを行なっています。	食事の準備では、利用者もかかわりながら、盛り付けや片付けを行っている。イベントの際には宅配の食材を止めて買い出しを行い、利用者の要望を踏まえ好みの料理(流しそうめん、バイキング等)を皆で作るなど、食事の楽しみにつなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの取れた食事を提供させて頂いてます。水分量はある程度設定された量を下回らない様声かけを行なっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア、就寝前には義歯洗浄を行なっています。ご自分で行なえる方には声かけ、介助が必要な方には必要な介助を行ない清潔を維持しています。		

グループホームガーデンコートちはら台(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、適切なタイミングのトイレ誘導を心がけています。	利用者一人ひとりの排泄状況に関しては、個人日誌に水分摂取量や排泄に関する記録を残し、利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量と運動不足に留意しつつ、おおよその排泄間隔を把握する事に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	目安となる入浴予定はありますが、当日の体調、希望で変更しています。	利用者の体調やタイミングを考慮し、最低週2回は入浴できるように支援している。入浴中は職員が介助につき、転倒等が生じないように安全面には十分に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の過ごし方を把握し本人のペースで休める様努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時に薬剤師に立ち会って頂き、服薬管理、薬剤の説明と服薬の指導を頂いています。職員は、症状の変化や状態を確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や特技を活かし職員がアイデアを出し合い、気分転換できるサービスを考えられています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の公園に散歩に出かけるのが日課となっていますが、買い物やドライブ、外食会、遠足等を企画して出かけています。	日常的にはホーム周辺の散歩、近隣公園等の散策を行っている。また近隣商店への買い物や喫茶、外食に出かけたり、地域の行事である桜祭りや、盆踊り等に外出している。普段いけないような場所については利用者の意向や状態等も考慮し、家族と協力し外出できるように支援している。	

グループホームガーデンコートちはら台(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	購入したい物品がある場合は、お預かりしているお小遣いの中からご本人の欲しいものを選んでもらっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人の希望時に対応しています。手紙や年賀状が届いた際は、お返事を出せるようお手伝いさせて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や共有フロアに季節に合わせた装飾をし、季節が目で見えてわかるよう工夫をしています。、ソファ等ゆったりとくつろげるようにしています。	共用の空間は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、行事や季節に合わせて装飾したり、掲示をして生活感や季節感を採り入れている。また、リビングには、ソファを設置し、ゆったりと居心地よく過ごすことができる環境としている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合ったお客様同士で共有のフロアで雑談をしたり、ソファや玄関の椅子等で一人の時間を過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れた物をお持ち頂いたり、本人と相談の上、家具の配置を決めています。	居室は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れた家具や好みのものの持ち込みを可能とし、利用者が居心地よく過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お客様の出来る事、分かる事を職員が把握し、自立した生活が送れるように新聞や雑誌、読書をしたり、掃除、食事の配膳、下膳、洗濯などの声かけを7行なっています。		